

## 加賀文化の粹Ⅱ 茶の湯・絵画・工芸【古美術】



県文《粉引茶碗 銘楚白》—「加賀文化の粹Ⅱ」より—

- 前田家の甲冑・陣羽織Ⅰ【前田育徳会尊經閣文庫分館】
- 春の優品選【近現代絵画・彫刻】
- 春の優品選【近現代工芸】
- 前田家の甲冑・陣羽織Ⅱ【前田育徳会尊經閣文庫分館】
- 加賀文化の粹Ⅲ 加州刀【古美術】

- 土曜講座について
- 企画展Topics 没後35年 鴨居玲 一静止した刻一

## 第2展示室【古美術】

# 加賀文化の粹Ⅱ

## 茶の湯・絵画・工芸

4月19日(日)～5月17日(日) 会期中無休

第Ⅱ期は、絵画、茶道美術の作品を一部入れ替えました。まず絵画では、《山水図》伝狩野元信筆をご紹介します。本作は、一見不特定の場所を描いた山水画との印象を与えますが、画面を詳細に見ると、煙寺晚鐘、山市晴嵐、瀟湘夜雨、遠浦帰帆、漁村夕照、洞庭秋月、平沙落雁、江天暮雪の、いわゆる瀟湘八景を描いたものであることがわかります。さらにこれらの八景は、春から冬の四季の移ろいに合わせて展開しており、「四季山水図」として鑑賞することもできます。こうした意味の重層性は、室町時代以降の絵画によく見られる特質といえます。本作が、狩野家二世の元信（一四七六～一五五九）筆と伝えられているのは、構図に、元信周辺の画家による山水図との

共通点が認められるからだと思います。実際の制作年は、元信よりも下がると考えられますが、室町時代に狩野派が打ち出した大画面の水墨山水図の典型的な作例として貴重です。そして本作が加賀藩主・前田家に伝来した事実も注目されることです。

茶道美術では、《粉引茶碗 銘楚白》（県文）にも注目いただきたいと思えます。粉引茶碗は、鉄分の多い胎土に白化粧を施し、透明釉をかけて焼造した焼物で、白い粉を吹きかけたように見えることからこのように呼ばれました。その中で、特に清楚なものを素白の意味である楚白手といい、本作は、銘が示すようにその基準作とされる名碗で、加賀藩三代藩主・前田利常の時代に入手されたと考えられます。



《山水図》（右隻）伝狩野元信

## 前田育徳会尊經閣文庫分館

# 前田家の甲冑・陣羽織Ⅰ

4月19日(日)～5月17日(日) 会期中無休

今回は、展示作品の中から《軍装図録》を紹介し、下の画像で確認いただけるように、折本装に改められた本作表紙に貼られた題簽には、「加賀藩主甲冑並藩軍装図録」と記されていますが、「軍装図録」と通称されています。本作は、二代・前田利長から十一代・治脩に至る加賀藩歴代藩主が所用した甲冑や陣羽織、前田家の旗指物などの形状、材質、彩色などを五帖に収録したものです。今回は、そのうちの第一帖と第二帖を展示します。第一帖は、家紋、旗から前田家重臣の馬印に始まり、二代から四代藩主の甲冑・陣羽織が収録されています。そして第二帖は、五代藩主・綱紀所用のもので占められています。これは、綱紀が軍令、軍装、軍器に関する諸制度を定めたことによるもので、特に軍装への強い関心を再認識することが

できる点が注目されます。本作の制作年代は、寛政年間から文化年間（十八世紀末～十九世紀初頭）におよび、前田家の武の装いを研究する貴重な資料となっています。

本年度当館の展覧会スケジュールでお知らせしましたように、加賀藩祖・前田利家所用の《金小札白糸素懸威胴丸具足》（重文）は、七月二十五日から開催する企画展「加賀百万石文武の誉れ―歴史と継承―」で展示します。同展には、尾山神社ご所蔵の《朱塗台雲龍金時絵大小拵》（重文）も展示されます。本作は、利家が桶狭間の合戦で勇名をさせた折に使用したもので、まさに「文武の誉れ」の具現化といえることができます。どうぞご期待ください。

《軍装図録―》表紙

# 春の優品選

4月19日(日)～5月17日(日) 会期中無休

当館展示室の壁面ケースには、屏風や棚など、背の高い工芸作品を展示することができます。近現代工芸の第5展示室では、華やかな着物作品を壁面ケースに展示しますが、とりわけ入口に一番近いスペースは、展示作品の中でも最初に目にする可能性が高いため、その時のテーマを象徴する作品を配置することが多い場所です。今回は、加賀友禅の名匠・毎田仁郎の代表作の一つ《友禅訪問着「早春」》を展示しています。

左右で色を替えた片身替の地色に、春風に揺られる柳の枝を全体に配した、新鮮な印象の着物です。木の幹を描かず、枝のみを表したことによって、柳とともに風に吹かれているような臨場感があります。また丹念に描かれた葉の一枚一枚、枝の絶妙な配置か



毎田仁郎《友禅訪問着「早春」》

らは、作者が幾度も柳の木をスケッチし、熟考を重ねた構成であることがうかがえます。柳の葉は、向かって左側の濃い地色には薄い青、右側の淡い地色には濃い青を基調として表し、左右で反転させています。計算された配色ですが、絵画的な図柄により、日向と日陰を表したようにも見えます。毎田が友禅の技術のみならず、描写力・表現力にも優れていたことを示す作品です。

同じく友禅の水野博による《友禅訪問着「春」》、小紋染の坂口幸市による《付下小紋「春の流れ」》など、他にも春をテーマとした着物作品を展示します。戸外で季節の移り変わりを楽しむことが難しい昨今ですが、展示作品で春を感じていただければ幸いです。

# 春の優品選

4月19日(日)～5月17日(日) 会期中無休

春爛漫な華やかな季節から、暖かな日差しを感じる今日この頃。絵画・彫刻部門では引き続き、春のぬくもりを感じる作品を中心に紹介していきます。

洋画部門からは、飛鳥哲雄の《手鏡》など油彩画の秀作を紹介します。飛鳥は明治二十八年金沢市に生まれ、県立工業学校図案絵画科を経て東京美術学校を卒業しました。在学中は岡田三郎助に師事し、二科展を主な作品発表の舞台としました。《手鏡》は、まだ若き飛鳥が自身の描画表現を模索していた時期の秀作です。

日本画では、前号でお伝えしたとおり、没後二十五年を記念して、畠山錦成の作品を多く展示しています。本作家は昭和十一年発表の目黒雅叙園田蔵《子猫》という緻密に計算された美人画が有名ですが、当館所蔵品は昭和後期の老齢期の作が多くを占めま

す。計算ではなく描きたいものを描きたいように描く、そんな作風も魅力的です。

彫刻部門からは、モデルの存在が推測される人物像や抽象的な「顔」を紹介しています。それぞれ、どのような表情なのか、どのような佇まいで、何を思うのかを想像しながら鑑賞していただけたいと思います。

素描では脇田和の作品を紹介します。脇田の生涯のテーマとなる鳥をモチーフにした作品は、一九五〇年代初め、脇田の病氣療養中に友人から鳥を贈られたことからはじまります。脇田の言葉に「鳥は自分だと思っっている、鳥に託してなにかメッセージを送りたい」とあります。作品にどんなメッセージが込められているのか楽しみながら、ご鑑賞ください。



飛鳥哲雄《手鏡》



## 第2展示室【古美術】

# 加賀文化の粹Ⅲ 加州刀

5月23日(土)～6月14日(日) 会期中無休

Ⅲ期は、室町時代から江戸時代まで加賀の地で作られた、いわゆる加州刀を約二十口展示して、日本刀の歴史における加州刀の特質の一端をご紹介します。そして今回は、加州刀の中でも重要な位置を占める、藤嶋友重および藤嶋派の家次、清光を主体とします。藤嶋は越前の地名であり、友重は元来越前の人で、室町時代には加賀に移住し、以後江戸時代をとおりて刀剣、槍の制作で重要な働きをしています。今回展示する刀剣のほとんどは、戦後連合国軍に武装解除の一環として接収された刀剣類のうち、東京都北区赤羽に集められたために、「赤羽刀」と呼ばれていたものです。昭和二十年（一九四五）太平洋戦争の終結により、連合国占領軍（GHQ）は日本の武装解除の一環として国内の刀剣類を接収しました。接収された一部が赤羽（現東京都北区）にあったアメ

リカ第八軍兵器補給廠ほきゅうしょうに集められました。二年後の昭和二十二年、当時の刀剣関係者の尽力により、このなかから美術的価値のある刀剣については返還されることになり、上野の国立博物館（現東京国立博物館）に移されました。その数は、約五千五百本余と言われています。平成七年（一九九五）、「接収刀剣類の処理に関する法律」が成立し、文化庁ではこの法を受けて旧所有者が判明したものについては返還し、残りは一旦国庫に帰した後、全国の、これら刀剣類のゆかりの地にある公立の美術館・博物館等へ無償譲与し、活用・公開されることになりました。石川県立美術館は加州刀を中心に七十口の譲与を受け、平成十一年度から順次研磨に着手し、公開しています。



〈刀 銘加州金沢住藤原清光作〉

## 前田育徳会尊經閣文庫分館

# 前田家の甲冑・陣羽織Ⅱ

5月23日(土)～6月14日(日) 会期中無休

前田育徳会尊經閣文庫分館では例年、加賀藩祖・前田利家が天正十一年（一五八三）六月十四日、金沢城に入城し、金沢の礎を築いた偉業をしのんで開催される「百万石まつり」の協賛事業として、歴代藩主所用の甲冑・陣羽織などを展示しています。そこで今回は、展示作品の中から前田利家ゆかりの《石目筒》と呼ばれている鉄砲の筒を紹介します。鉄砲は、一五四三に種子島に漂着したポルトガル人がわが国に伝えたのが最初であるとされていますが、異説もあります。当初はポルトガル人から購入していましたが、やがて刀鍛冶の技術をベースとした鉄砲鍛冶が誕生し、国内でも生産されるようになりました。鉄砲の急速な普及は、戦争の形態自体を根本的に変えることとなり、天下統一の帰趨を決する重要な要因ともなりました。本品は、一五八四年に越中の佐々成政が軍

勢を率いて能登の末森城を攻め、守勢となった末森城救援のために前田利家が金沢を急発し、海岸線を進み末森城に入り、成政軍を撃退した「末森の戦い」で、敗走する佐々成政軍が戦場に放棄した、いわゆる前田軍の分捕品です。大小二口があり、銃身の後ろ側を塞ぐ尾栓に使われているネジなど、日本における技術改良の成果が確認される点でも興味深いものがあります。「末森の戦い」は、単に加賀・能登の前田利家と越中の佐々成政という隣接する分国領主の抗争ではなく、豊臣秀吉による天下平定事業の一環として重要な意義をもつものでした。利家もその点は十分承知をして、自身を莊嚴するために《金小札白糸素懸威胴丸具足》（重文）を着用して、救援に駆けつけたのでしよう。

〈石目筒〉

# 令和2年度の土曜講座を開講します

6月から本年度の土曜講座を開講します。当館学芸員が日ごろ研究しているテーマや、開催中の展覧会に関連したテーマで本年度は18回行います。お気軽にご参加ください。

毎回午後1時30分より3時まで。事前申し込み不要、聴講無料です。

| No. | 月/日 | 内 容 | 担 当 |
|-----|-----|-----|-----|
| 1   |     |     |     |
| 2   |     |     |     |
| 3   |     |     |     |
| 4   |     |     |     |
| 5   |     |     |     |
| 6   |     |     |     |
| 7   |     |     |     |
| 8   |     |     |     |
| 9   |     |     |     |
| 10  |     |     |     |
| 11  |     |     |     |
| 12  |     |     |     |
| 13  |     |     |     |
| 14  |     |     |     |
| 15  |     |     |     |
| 16  |     |     |     |
| 17  |     |     |     |
| 18  |     |     |     |

新型コロナウイルスの影響で講座の日時や定員を変更、または中止する場合がございます。ご不便をお掛けしますが、ご理解・ご協力賜りますようお願い申し上げます。

会期：令和2年6月20日(土)～7月19日(日)



鴨居玲《静止した刻》



鴨居玲《1982年 私》



鴨居玲《夜（自画像）》笠間日動美術館蔵



鴨居玲《蛾と老人》



鴨居玲《ÉTUDE (A)》

## 次回の展覧会

令和2年6月20日(土)  
～7月26日(日)  
会期中無休

前田育徳会  
尊経閣文庫分館

日本往生極楽記と  
一遍上人絵伝

第2展示室

加賀ゆかりの個性派絵師  
守景・岸駒

第4展示室

木と向き合う  
～木彫の世界～

第5展示室

きらめく美  
北陸ゆかりの截金作家たち

企画展示室

鴨居 玲  
—静止した刻—

## ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 370円(290円)

大学生 290円(230円)

高校生以下 無料

※( )内は団体料金

5月4日は第1月曜により

コレクション展示室無料の日

5月の開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後7:00 年中無休

5月の休館日は  
18日(月)～22日(金)

## 「石川県立美術館だより」に広告を掲載しませんか？

石川県立美術館友の会会員、石川県立美術館協力者、  
県内各行政機関及び文化施設、全国の美術館・博物館へ

郵送配布!! 3,000部発行

ターゲットを狙った  
知名度向上

県立美術館発行の  
信頼度の高い広報媒体

お問い合わせ ☎092-716-1401

株式会社ホープ 福岡県福岡市中央区薬院1-14-5MG薬院ビル7F  
東京証券取引所マザーズ上場 福岡証券取引所Q-Board上場 財務確保 検索

石川県立美術館だより  
第439号(毎月発行)  
2020年5月1日発行  
〒920-0963  
金沢市出羽町2番1号  
Tel:076(231)7580  
Fax:076(224)9550  
URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

石川県立美術館は電源立地地域対策  
交付金を活用して運営しています。